



校長室だより

Newsletter from the Principal 校長簡訊



誰かの「正解」の外側で ～ 輝ける明日を創ろう～

新堀 隆久

みなさん、こんにちは。

唐突ですが、夏休みに読んだ一つのインタビュー記事が、心に残っています。文筆家として活動されている「絶対に終電を逃さない女」さん(通称:終電さん)の言葉です。彼女は、周囲から「こうするのが当たり前」「これができるのが普通」と、大人が作った「正解」を当たり前のよう押しつけられることに、ずっと違和感を抱えて生きてきたと語っていました。それを読んだとき、私は自分自身にも、同じようなことがあるなと思いました。

この夏、予定通りにいかなかったことを振り返りながら、「もっと何かできたはずだ」と焦っていました。でも、それは「有意義な夏休みとは、こういうものだ」という、自分の中の「正解」に縛られていただけだったのかもしれませんが。できなかったことばかりを数えて、過ごしてきた一日一日を、自分自身で否定しかけていたのです。

2学期が始まります。勉強や進路、行事、部活動など、いろいろな場面で、「みんなのようにできない」「思うような結果が出ない」と感じることもあるかもしれません。そんなとき、少し立ち止まって考えてみてください。「それは、本当に自分が決めた正解なのかな。」何か特別な成果を上げなければ、一日に価値がないわけではありません。うまくいく日もあれば、思うようにいかない日もある。頑張れる日もあれば、頑張れない日もある。誰かの「普通」と、自分の「普通」が違っていてもいい。誰かの「正解」の中に、自分を無理に合わせなくてもいい。思い通りにならなかった時間も含めて、今日という一日を過ごしたあなた自身を、大切にできるような生き方をしてください。

2学期も、誰かの「正解」の外側で、それぞれの場所から、それぞれの時間を過ごしていきましょう。

